

留学経験が就職活動のプラスに！ 留学帰国生の約9割「留学経験が就職活動に良い影響」と回答 留学により留年・休学した学生のうち「就活にマイナス」はたった5%

文部科学省が官民協働で取り組んでいる留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」は、2017年11月に、インターネットにて「派遣留学生の就職活動調査（2017年に新卒向け就職活動を経験した「トビタテ！留学JAPAN」派遣留学生483名より有効回答）」を実施しました。今回の調査によって、留学経験が就職活動のプラスになっていることや、留学経験が志望する業界や企業に変化をもたらしていることなどが分かりました。

■約9割の学生が「留学経験が就職活動に良い影響」と回答。

8割以上の企業が「海外事業を強化・拡大する」と回答※¹し、外国人留学生の新卒採用実績が2014年度の平均2.79人から2015年度は9.50人と3倍以上に急増※²するなど、日本企業のグローバル化への意識は年々向上。企業の採用担当者の62.1%が「日本人の留学経験者を積極的に採用していきたい」と回答（グラフ①参照）していることから、各企業グローバル化に対応するため、外国人留学生や日本の留学経験者を獲得しようとする“グローバル人材獲得競争”が年々激しくなっています。

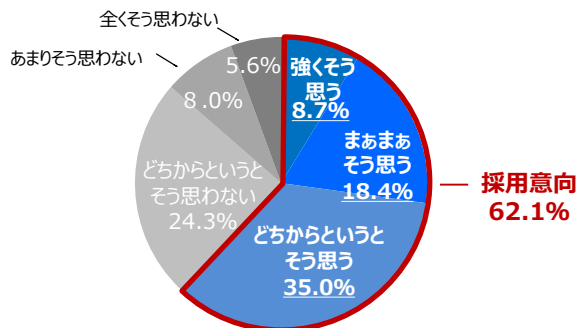
今回の調査で、就職活動を経験した留学帰国生に、「留学経験が就職活動に良い影響を与えたか」調査したところ、約9割となる89.2%の学生が「良い影響を与えた」と回答。「全く影響しなかった」と回答した学生はわずか4.3%という結果となり、留学経験が就職活動のプラスになっていることが分かりました。（グラフ②参照）

具体的に評価されたポイントは、留学経験で培った「何事にも挑戦するチャレンジ精神」（76.7%）、「広い視野で物事を捉える力」（61.0%）、「対人コミュニケーション能力」（56.8%）など、留学先での学びが評価されたことが分かりました。これは、過去調査で「企業の採用担当者が学生に留学で得てほしいこと」と一致しています。（グラフ③参照）

※1・・・出典：国際協力銀行（607社が回答、2015年）

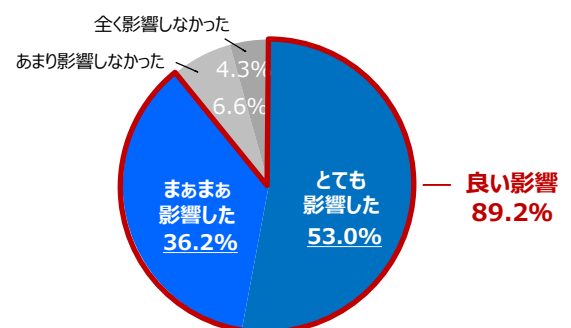
※2・・・出典：ディスコ「外国人留学生の採用に関する企業調査」（2015年11月）

①「採用担当の留学経験者採用意向」



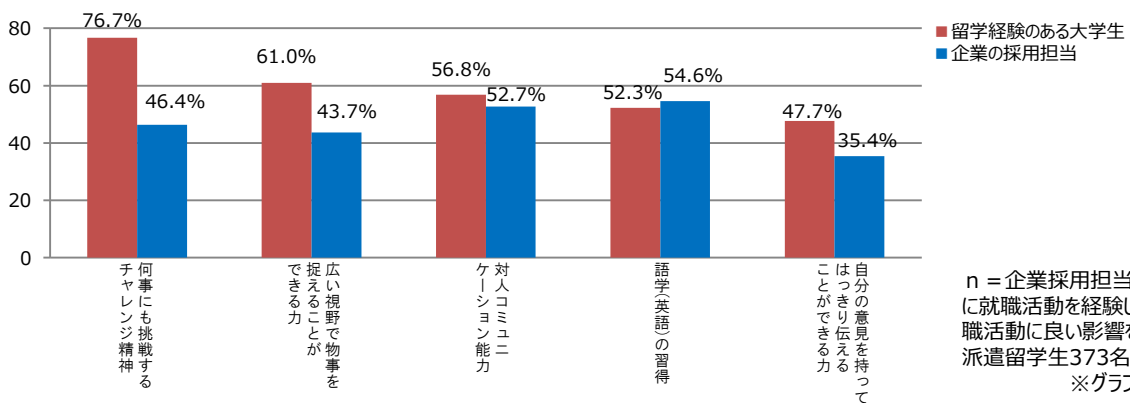
出典：トビタテ！留学JAPAN「就職活動と留学に関する意識調査」（2017年6月調査）

②「留学経験が就職活動において良い影響を与えたか」



n = 2017年に就職活動を経験した派遣留学生423名
※無回答60名

③「留学帰国生が就職活動で評価された留学で得られたこと」、「採用担当が学生に留学で得てほしいこと」



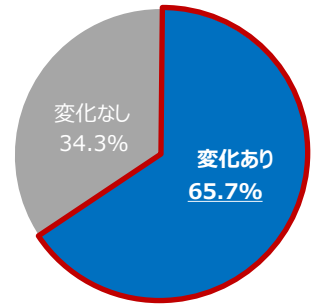
n = 企業採用担当412名、2017年に就職活動を経験し、留学経験が就職活動に良い影響を与えたと回答した派遣留学生373名
※グラフは上位一部抜粋

■約7割が留学経験によって志望業界・企業が変化

65.7%の学生が、「留学によって志望業界・企業に変化があった」と回答。(グラフ④参照)
 留学前後で働いてみたいと感じる企業や仕事についての変化について調査したところ、「将来日本の成長に貢献できる企業」(留学前43.6%→留学後59.1%)、「外国語を使える企業」(留学前36.8%→留学後48.8%)の順で留学後のほうが意向が高くなっていることが分かりました。また、「生涯年収が高い企業」(留学前28.4%→留学後23.8%)、「周りに好感をもってもらえる企業」(留学前20.9%→留学後16.8%)の順で意向が低くなっていました。(グラフ⑤参照)

留学により、日本への貢献が高まり、安定や周囲の評価、収入以上に、グローバルな環境で自分がやりたいことにチャレンジでき、日本に貢献する仕事を求めるように変化することが分かりました。

④「留学によって志望業界・企業に変化があった」



n = 2017年に就職活動を経験した派遣留学生428名

【具体的な変化の例】

○日本人であることの意識が高まるとともに、海外で活躍している日本人に多数出会ったことで、日本の活躍を支え日本の将来に貢献する仕事がしたいと考えようになった。

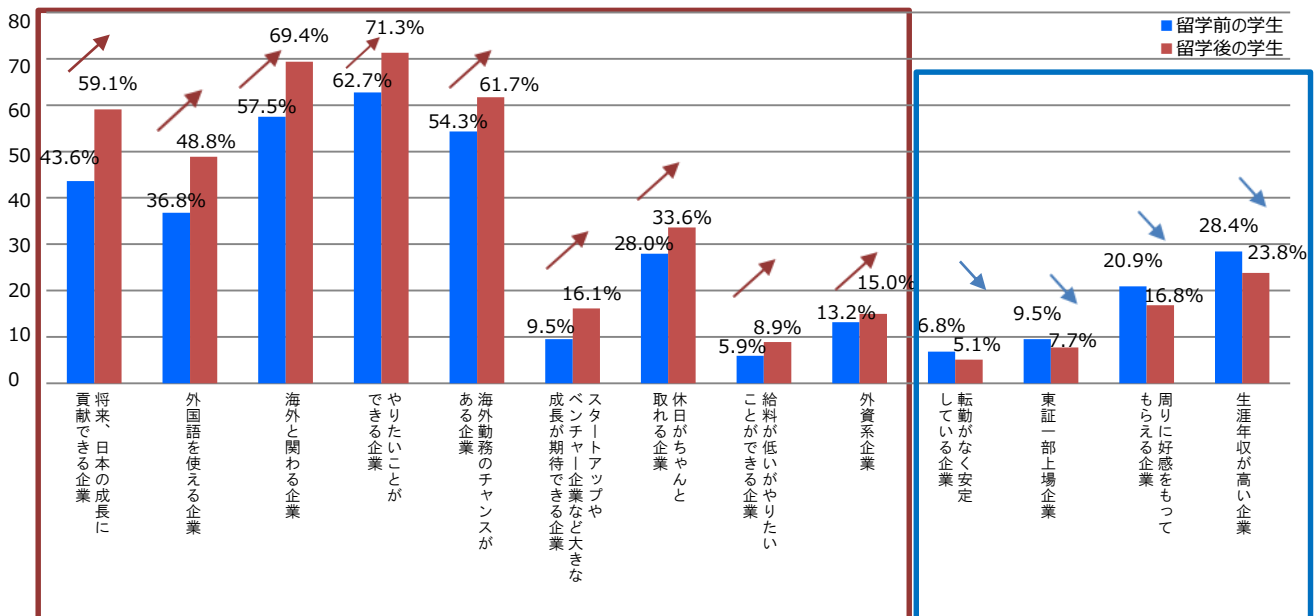
○日本の高い技術を世界に届けていけるような仕事をしたいと思った。また、様々な国籍や専門分野を持った人々とコミュニケーションを取りながらプロジェクトを進めていく仕事がしたいと思い、プラントエンジニアリング業界を志望した。

○留学する前は自分がどの業界・企業で働きたいのかわからず、就職活動をどのように進めていけばよいのか見当もつかなかったが、海外で研究したことによって、農業機械を通じて国内外の農家の手助けをしたい、という軸ができた。

○自分が本当に何がしたいのかを日本の常識にとらわれずに考える時間がとれた。海外インターンを通じて志望業界について直接知ることができた。

○博士に進学することに不安や迷いがあったが、アメリカの博士取得後の多様なキャリアパスを知ることができて、むしろ可能性が広がったと感じた。

⑤「働いてみたいと感じる企業や仕事」



n = 2017年に就職活動を経験した派遣留学生
 留学前：440名（無回答43名）
 留学後：428名（無回答55名）

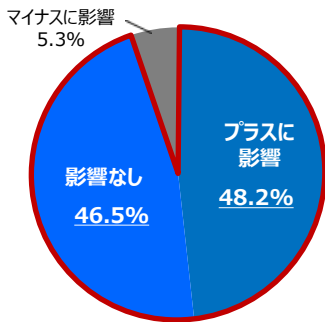
■ 留学の影響で留年・休学した学生のうち、「就職活動にマイナス」はたった5%

留学の影響で留年・休学した学生は、47.1%と全体の約半数におよびました。

「留学による留年・休学は、就職活動に影響があったか」調査したところ、「マイナスの影響があった」と回答した学生は、たった5.3%と少ない結果となりました。(グラフ⑥参照) また、影響なしという回答よりも、プラスに影響した(48.2%)という回答が多い結果となりました。一般に留年や休学をすることは就活に不利なのでは、といわれることがありますが、企業の採用担当者も約8割が留学による留年・休学をマイナス評価しないというデータ(グラフ⑦参照)も併せ見ると、実態は異なることが分かりました。

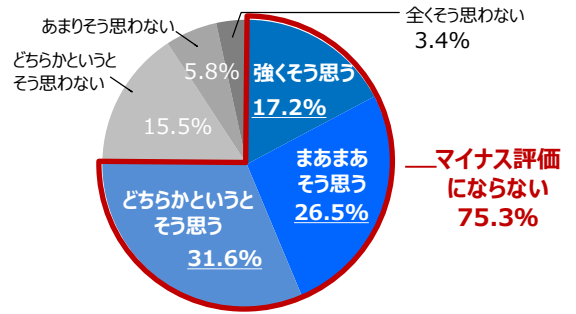
具体的な影響について、マイナスの影響としては「同期に比べて1年就職活動が遅れる結果、情報収集や相談がしづらい」(91.6%)が最多でした。プラスの影響は、「将来について考えを深めたうえで、就職活動に臨むことができる」(96.3%)、「就職活動を1年早く終わらせた友人から情報収集ができる」(54.1%)など、将来について考えを深めたうえで、効率的に情報収集できることが分かりました。また、「留学前後で就職活動を2回行うことができる」(13.7%)という声もありました。

⑥「留学による留年・休学が就職活動に影響したか」



n = 留学の影響で留年・休学し、2017年に就職活動を経験した派遣留学生226名

⑦「留学するために留年・休学することは採用においてマイナス評価にならない」



出典：トビタテ！留学JAPAN「就職活動と留学に関する意識調査」(2017年6月調査)

■ 「トビタテ！留学JAPAN」とは

文部科学省初の官民協働留学促進キャンペーン。2020年までに、海外留学する学生を倍増する目標を掲げスタート。主な取り組みである「日本代表プログラム」は、100%民間の寄附を財源とし、民間企業約200社から116億円以上の寄付が集まり、返済不要の奨学金でサポートする留学支援制度です。留学期間を28日以上2年以内で自由に設定でき、渡航先100か国以上、多様な6コースを用意。座学だけではない多様な留学を通じて、産業界を中心に社会で求められる人材、世界で活躍できる人材の育成を目指し、既に4000名以上を選抜し約100か国に留学しています。



以上

■ 「派遣留学生の就職活動調査」概要

対象 : 2017年に新卒向け就職活動を経験した「トビタテ！留学JAPAN」派遣留学生483名より有効回答
※調査結果の数字は四捨五入のため合計値が必ずしも一致しない場合があります。

調査方法 : インターネット調査

調査期間 : 2017年10月18日(水) ~ 11月13日(月)

<本件に関する報道関係者お問合せ先>

文部科学省 官民協働海外留学創出プロジェクトチーム「トビタテ！留学JAPAN」PR担当 : 西川
TEL 03-6734-4923 / FAX 03-6734-4936 / MAIL t-nishikawa@mext.go.jp